

男女共同参画標語
最優秀賞
「男女とも 歩みあわせて
輝くとりで」
 宮下拓也さん 藤代南中学校(当時)

38号

風

平成27年11月1日発行



優秀賞
学生部
 「同じだね 働く力と 支える心」
 「認め愛 支え愛 補い愛」
 「男女の手 大きき違えど 価値は同じ」
一般部
 「女の手男の手 合せた未来 取手から」
 「役割を 担う意欲と 任せるゆとり」



最高の笑顔と最高のポーズ

江戸取のチアリーダー部は
どんな部活?

今年で創設12年、部員は50名もいます。江戸取の中でも活気にあふれ、人気のある部活動です。大会のほかにも体育祭や文化祭などの学校行事や施設訪問など二年を通して練習の成果をさまざまな所で発表しています。

努力すれば結果は必ずついてくる!

江戸川学園チアリーダー部

『広報とりで5月1日号』みんなの広場の輝く笑顔の写真は、江戸川学園取手(以下 江戸取)チアリーダー部の8人でした。江戸取と言えば中・高一貫の進学校(現在は小学校も併設)、そこにチアリーダー部があることに驚きました。その上世界一になったとか、彼女たちはどんな高校生活を送ってきたのでしょうか。

その中で、チームBRUIINS(小熊という意味)は今年3月、ロスアンゼルスで行われた「ミス・ダンスドリルチームインターナショナル in USA 2015」の、ポンソング部門で世界一に輝きました。

BRUIINSはどんなチーム?

現在高校3年生8人のチーム名です。彼女たちのチア経験はさほど長くなく、小学生の時からやっていたのは部長の菅森さん一人だけ、後の7人は中学生になって入部してからスタートしました。チアをやりたいこの学校を選んだという菅森さんのような人もいれば、小学生の時に見たチアダンスにあこがれてと言う轟さん、バスケ部にしようかダンス部にしよるか迷った末にチア部を選んだ、踊るのが大好きな吉岡さん、幼友達に誘われて入部した3人組の弓立さん、高木さん、昆野さん、楽しそうだったからと鈴木さん、ヒップホップをやっていたのでダンス部にしよるか迷ったけれどチア部を選んだ安田さん、入部の動機もいろいろでしたが、みんな身体を動かす事、特にダンスは大好きでした。

彼女たちのしなやかで躍動的な動きは最初から持っていたものではなく、部活のコーチや先輩方に柔軟体操してもらい作り上げたものです。学業優先の校風の中、練習時間の確保が難しく、始業時間や授業後の朝練、授業後週5回の部活、日曜日にも5時間ほど練習をしてきました。その成果で中学3年生の3月の大会で全国優勝することができました。

中・高一貫のいいところでしょうが、中学3年で終了にはならず練習は続けられ、高校1年生の夏には世界をめざすという目標をたてました。日本での予選、本選、秋の全国大会を経てついに2015年3月のアメリカ大会へのパスポートを手に入れたのです。

チアの魅力はなに?

アメリカンフットボールなどスポーツを応援する時、チアリーダーが音楽に合わせて踊ることで観客に影響を与え、笑顔で一緒に応援し、その場の雰囲気盛り上げるのが出来るのが魅力だと語る彼女たちは、実際に他の部活の応援でその高揚感を体験しています。チアダンスの中でもいくつかの種目に分かれますが、彼女達は2分から2分半の音楽に合わせてポンポンを手持って踊る「ポンソング部門」です。

5年間の部活動を振り返って

現在、部活動は引退しましたが、この5年間は、ケンカした事や悩んだ事、すべてがなくてはならない成長過程でした。一つの目標に向けて頑張ったことが結果に繋がって達成感を得て、人間的に成長できたと思います。そして、先輩方や家族、先生方の協力があったのでここまで続けてこられたと、周りの人への感謝もしていました。顧問の鷺見先生はこのチームを「奇跡のチームです。一人一人が部長になれるほどしっかりしています。」と優しい眼差しを向けていました。

部長の菅森さんは「性格も体型もバラバラなチームです。だけど皆チアが好き」と、チームを評していました。今後の進路も異なり、表現の仕方は違ってくるけれど踊ることはみんな続けるそうです。周りの人たちに幸せな気分させるダンスを!

後に続く人たちに

今、江戸取チアリーダー部に出演依頼がたくさん来ています。先輩の協力で世界一の栄光を手に出たという高3メンバー8人は、その努力を見てきた後輩たちに良い影響と多少のプレッシャーを含んだ良い環境を残してくれました。

「きつい練習でつらい気持ちを乗り越えて努力すれば結果は必ずついてくる。ストイックにチアを続けてほしい」との菅森部長からのメッセージはチアリーダー部のみならず広く可能性を持ったみんなに伝えたい言葉でした。(河口)

子どもの頃の好奇心が育んだフロンティア精神

実は、塚本さんはつくば市職員です。研究者でも専門家でもない塚本さんがなぜ南極へ行くことになったのか? まずはその疑問をぶつけてみました。

そもそも塚本さんが南極への興味を持ったきっかけは、小学生の時に観た映画「南極物語」。未知の世界への憧れやフロンティア精神を刺激されたと言います。新しい事にチャレンジしたり、誰かの役に立つ仕事がしたいという漠然とした夢を抱いたそうです。そして、その思いが公務員の仕事を選ぶことにもつながりました。

南極はチャレンジングな職場、塚本 健二さん 39歳(つくば市役所職員)

今年3月に南極から帰国した第55次南極地域観測越冬隊24名。その一員として任務を全うした塚本健二さんが、今年の「女と男ともに輝くとりで集い」で講演を行います。そこで、風編集員が一足先にお話をうかがい、その人となりの一端をご紹介します。

職場の協力と家族の意外な反応!

市内と国立極地研究所の選考を経て、塚本さんは第55次越冬隊に選ばれました。もちろん、選ばれたからと言って手放しで出発できるわけはありません。一年以上に及ぶ任務。家族は反対しなかったのか、仕事はどうしたのか、気になるところです。「家族は、行ったらしゃい」と前向きでした。むしろ、周りの方が心配してくださって。風変わりな家族なのか(笑)「ちなみに塚本さんは、妻と三人の子供がいらっしゃるんですよ。その陰には、両親をはじめ、奥様のご実家の全面的な協力もあつたそうです。『家族をはじめ、職場のサポートも大きな後押しになりました。上司は快く送り出して、手がけていた新事業は後輩が引き継ぎ、今では順調に軌道に乗っています。』「自分一人ではこのチャレンジは成立しなかった」と嬉しそうに感謝の気持ちを語る塚本さんは、どこか誇らしげにも見えました。

自分の何が出来るか、南極での仕事の醍醐味

こうして南極の地を踏んだ塚本さん。しかし、浮き足立つことはなかったと振り返ります。「あくまでも南極は職場。平常心を忘れず職務を遂行する」そう自分を戒めたそうです。市職員の代表として派遣された意味と国家事業を推進するといった自分の果たすべき役割を冷静に考えていたからこそ、南極という特殊な環境に構えることなく順応できたのでしょう。

塚本さんの南極での職務は、庶務・情報発信など、管理能力とコミュニケーション力が問われる仕事です。隊の規律や隊員の人間関係を良好に保つための隠れた努力もありました。一方で、同じ目的を持つ者同士、いざという時の一体感、団結力は素晴らしいと言っています。

南極で得たものは?という質問に「人との繋がり」と答えた塚本さんだからこそ、極地でのチーム経験はこれからの人生の宝物となるに違いありません。

最後に、子供たちへのメッセージをお聞きしましょう。

「友達を大切にしよう!!」
 「友達を大切にしよう!!」
 「友達を大切にしよう!!」

第19回 女と男ともに輝くとりで集い

11月22日(日)午後0時30分開場
 取手ウェルネスプラザ
 (新町2-15-25)

※詳細は、取手市ホームページ、広報誌、市内公共施設でのポスター、チラシでご案内しています。

そんな自然体で飾らない塚本さんの目線で見ると南極を講演会で体感しませんか? 「第19回女と男ともに輝くとりで集い」に塚本さんが来てくださいます。南極での生活、不思議な体験、面白い動物、感動したことなど、どんなお話が出てくるか。ぜひともお楽しみに!! (下園)

市職員の代表として派遣された意味と国家事業を推進するといった自分の果たすべき役割を冷静に考えていたからこそ、南極という特殊な環境に構えることなく順応できたのでしょう。

塚本さんの南極での職務は、庶務・情報発信など、管理能力とコミュニケーション力が問われる仕事です。隊の規律や隊員の人間関係を良好に保つための隠れた努力もありました。一方で、同じ目的を持つ者同士、いざという時の一体感、団結力は素晴らしいと言っています。

市内と国立極地研究所の選考を経て、塚本さんは第55次越冬隊に選ばれました。もちろん、選ばれたからと言って手放しで出発できるわけはありません。一年以上に及ぶ任務。家族は反対しなかったのか、仕事はどうしたのか、気になるところです。「家族は、行ったらしゃい」と前向きでした。むしろ、周りの方が心配してくださって。風変わりな家族なのか(笑)「ちなみに塚本さんは、妻と三人の子供がいらっしゃるんですよ。その陰には、両親をはじめ、奥様のご実家の全面的な協力もあつたそうです。『家族をはじめ、職場のサポートも大きな後押しになりました。上司は快く送り出して、手がけていた新事業は後輩が引き継ぎ、今では順調に軌道に乗っています。』「自分一人ではこのチャレンジは成立しなかった」と嬉しそうに感謝の気持ちを語る塚本さんは、どこか誇らしげにも見えました。

市内と国立極地研究所の選考を経て、塚本さんは第55次越冬隊に選ばれました。もちろん、選ばれたからと言って手放しで出発できるわけはありません。一年以上に及ぶ任務。家族は反対しなかったのか、仕事はどうしたのか、気になるところです。「家族は、行ったらしゃい」と前向きでした。むしろ、周りの方が心配してくださって。風変わりな家族なのか(笑)「ちなみに塚本さんは、妻と三人の子供がいらっしゃるんですよ。その陰には、両親をはじめ、奥様のご実家の全面的な協力もあつたそうです。『家族をはじめ、職場のサポートも大きな後押しになりました。上司は快く送り出して、手がけていた新事業は後輩が引き継ぎ、今では順調に軌道に乗っています。』「自分一人ではこのチャレンジは成立しなかった」と嬉しそうに感謝の気持ちを語る塚本さんは、どこか誇らしげにも見えました。

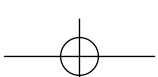
市内と国立極地研究所の選考を経て、塚本さんは第55次越冬隊に選ばれました。もちろん、選ばれたからと言って手放しで出発できるわけはありません。一年以上に及ぶ任務。家族は反対しなかったのか、仕事はどうしたのか、気になるところです。「家族は、行ったらしゃい」と前向きでした。むしろ、周りの方が心配してくださって。風変わりな家族なのか(笑)「ちなみに塚本さんは、妻と三人の子供がいらっしゃるんですよ。その陰には、両親をはじめ、奥様のご実家の全面的な協力もあつたそうです。『家族をはじめ、職場のサポートも大きな後押しになりました。上司は快く送り出して、手がけていた新事業は後輩が引き継ぎ、今では順調に軌道に乗っています。』「自分一人ではこのチャレンジは成立しなかった」と嬉しそうに感謝の気持ちを語る塚本さんは、どこか誇らしげにも見えました。



市内と国立極地研究所の選考を経て、塚本さんは第55次越冬隊に選ばれました。もちろん、選ばれたからと言って手放しで出発できるわけはありません。一年以上に及ぶ任務。家族は反対しなかったのか、仕事はどうしたのか、気になるところです。「家族は、行ったらしゃい」と前向きでした。むしろ、周りの方が心配してくださって。風変わりな家族なのか(笑)「ちなみに塚本さんは、妻と三人の子供がいらっしゃるんですよ。その陰には、両親をはじめ、奥様のご実家の全面的な協力もあつたそうです。『家族をはじめ、職場のサポートも大きな後押しになりました。上司は快く送り出して、手がけていた新事業は後輩が引き継ぎ、今では順調に軌道に乗っています。』「自分一人ではこのチャレンジは成立しなかった」と嬉しそうに感謝の気持ちを語る塚本さんは、どこか誇らしげにも見えました。

市内と国立極地研究所の選考を経て、塚本さんは第55次越冬隊に選ばれました。もちろん、選ばれたからと言って手放しで出発できるわけはありません。一年以上に及ぶ任務。家族は反対しなかったのか、仕事はどうしたのか、気になるところです。「家族は、行ったらしゃい」と前向きでした。むしろ、周りの方が心配してくださって。風変わりな家族なのか(笑)「ちなみに塚本さんは、妻と三人の子供がいらっしゃるんですよ。その陰には、両親をはじめ、奥様のご実家の全面的な協力もあつたそうです。『家族をはじめ、職場のサポートも大きな後押しになりました。上司は快く送り出して、手がけていた新事業は後輩が引き継ぎ、今では順調に軌道に乗っています。』「自分一人ではこのチャレンジは成立しなかった」と嬉しそうに感謝の気持ちを語る塚本さんは、どこか誇らしげにも見えました。

市内と国立極地研究所の選考を経て、塚本さんは第55次越冬隊に選ばれました。もちろん、選ばれたからと言って手放しで出発できるわけはありません。一年以上に及ぶ任務。家族は反対しなかったのか、仕事はどうしたのか、気になるところです。「家族は、行ったらしゃい」と前向きでした。むしろ、周りの方が心配してくださって。風変わりな家族なのか(笑)「ちなみに塚本さんは、妻と三人の子供がいらっしゃるんですよ。その陰には、両親をはじめ、奥様のご実家の全面的な協力もあつたそうです。『家族をはじめ、職場のサポートも大きな後押しになりました。上司は快く送り出して、手がけていた新事業は後輩が引き継ぎ、今では順調に軌道に乗っています。』「自分一人ではこのチャレンジは成立しなかった」と嬉しそうに感謝の気持ちを語る塚本さんは、どこか誇らしげにも見えました。



シリーズ No.24

企業訪問

あきらめず、前進あるのみ

アディス代表取締役 北嶋道代さん(44)
大勝電設アシスタントレディ 佐藤博代さん(45)



親子三人、会社の事務所で(中央が大久保社長・右が北嶋さん・左が佐藤さん)

ゴルフで鍛えた精神力

北嶋さんがご主人と共に経営するのは、産業用太陽光発電システムと電気設備工事を中心とする(有)アディス(取手市取手2丁目)という会社です。父親が経営する大勝電設(株)(取手市光風台、大久保秋雄社長・69歳)から、2012年に独立しました。北嶋さんは、18歳からプロゴルファーを目指し、女子プロの帯同キャディーとして、海外にも転職した経験を持っています。

「プロゴルファーとしての限界が見えた」と感じたのを機に、ゴルフに終止符を打ちました。

その後は熟慮の末、これまで苦勞をかけてきた両親に「恩返しを」という思いで、大勝電設に入社することを決意し、それから15年間、電気の仕事に携わってきました。この間、第2種電気工事士資格を得たほかガス溶接、高所作業車、統括安全衛生責任者など14の技能講習、特別教育を修了。現場でその成果を発揮しました。男性に混じっての仕事場で、従来の雰囲気ガラリと変えました。当初は、女性用トイレも更衣室もなく、苦戦した思い出が残っているそうです。北嶋さんが仕事をやる上で、大きな支えになっているのは、ゴルフで培った「あきらめず、目標に向かう力」と言います。「技能講習、電気関係の勉強でも毎日、血の出るような練習で鍛え上げた強い精神力で突き進めました。そして、それは現在の

家族の理解が支え

仕事にも大いに役立っているのは、言うまでもありません。

今でこそ笑って話せるようですが、独立時、双子の8歳児と、5歳児と、1歳児の男の子4人がいました。子育てへの不安は半端ではありませんでした。「独立すれば、家庭と仕事の区別がなくなる。それなら今まで通り、決まった時間が取れる社員として働いた方が良いのではないかと迷いました。しかし、一歩踏み出してみると、思いの外時間のやり繰りが出来、時間を有効に活用するようになりました。そして当初の悩みであった子育てと会社経営の両立は、夫の強力な理解と手助けがあり、徐々に成功に向かいました。子供たちもそんな両親の一生懸命働いている姿を見て、少しずつ理解していったようです。」と笑顔で話していました。「仕事と子育て」の在り方は昨今の大きな問題ですが、家庭や地域社会の理解を深めることが大切な

女性も積極的に現場へ

「電気工事の世界は、図面作成・現場管理・職人さんとの連携など、難しい対応を迫られる場面に直面するため、女性では無理がきかないと敬遠される傾向があります。しかし、意欲と資質があるにも関わらず目指す仕事から遠ざけるのは、社会にとってもマイナス。やる気がある人には、積極的に現場に入ってもらいたいですね」と話すのは、大久保社長。10年ほど前には、女性にも活躍する場を設けようと、東京電業協会主催の技能競技大会に、会社の意欲ある女性社員の参加を勧めました。北嶋さんも参加したことがありました。当時、同大会への女性の参加は異例で、業界の関心を集めたということでした。現在の女性社員の多くは、事務職で活躍しています。大久保社長は

人が寄る企業へ

「現場で働こうという女性を指導する人材確保が、経営的にも困難であることなどで、育て切れないのが実態。条件さえ整えば不可能ではないのですが」と本音を語っていました。

大勝電設を内部から支えるのは総務関連の業務。経営的な数値管理、関係業者や人との信頼性の構築と幅広いだけに重要。この業務で活躍するのが、大久保社長の長女、佐藤博代さん。精密測定機器研究所に6年勤務して、事務のノウハウを徹底的に叩き込みました。佐藤さんは、茨城県電気工事業者組合の女性部でも活躍。夫はシステムエンジニアで海外出張も多く、家には高校生の男子と中学生の女子がいますが、子供たちに手伝ってもらいながら日々頑張っています。ここまでやる原動力は「子供や夫を信頼し、手伝ってもらおう」という意識かな。目標は父親。場が和み、人が寄ってくる企業にし

安全・安心で活気ある街づくりをを目指す

南町防犯パトロール隊・さくら婦人チームリーダー 杉田恭子さん 渡部京子さん

安全で安心な街づくりはどの地域でも目標として、活発に取り組んでいます。今回は、女性メンバーによる町内会有志で防犯チームを組織づくりし、活動されているメンバー取材しました。

まず、防犯パトロール隊長の青木博さんを訪問し、組織全体の状況、組織づくりの発端・発足時の状況、女性部隊の編成についてお聞きしました。続いて、婦人防犯チームの巡回活動に合流しながら、女性メンバーの方からお話を伺いました。

10年前に発足し、3年前に女性チームを編成

「今年6月17日で10周年を迎えました。10年前にさかのぼりますが、定年退職し時間的余裕ができた時、町内の方から「何か役に立つことをやりたい」との要望がありました。合わせて、取手警察署から「防犯組織を立ち上げて欲しい」との

要請もあり「南町防犯パトロール隊」を発足させました。当初は男性のみの組織でスタートしましたが、平成24年に婦人チームを組み入れて、女性目線を加えた男女共同参画の組織としました。ご夫婦で参加される方も多く共通の話題・テーマを持たれることで会話の機会が増えたと喜んでもらっています。」とパトロール隊長の青木さん。

街の防犯灯とおせっかいおばさん

現在の組織は8班体制で、うち2班が婦人チーム。各班にはリーダー(グループ長)を任命しているそうです。活動内容は、①週1回の定期地域巡回パトロール、②毎日の登下校時の見守り、③各種啓蒙活動(二セ電話詐欺、防犯予防対策、などが主です。犯罪は天候に関係なく起こるといふ考えから、雨天時も実施しています。

要請もあり「南町防犯パトロール隊」を発足させました。当初は男性のみの組織でスタートしましたが、平成24年に婦人チームを組み入れて、女性目線を加えた男女共同参画の組織としました。ご夫婦で参加される方も多く共通の話題・テーマを持たれることで会話の機会が増えたと喜んでもらっています。」とパトロール隊長の青木さん。

やりがい

我々チームの最大の強みは、結束力。そして、絆です。自分た

最後に

犯罪撲滅を目指し、自主防犯活動の中核となつて我々市民の生活を守って頂いていることに深く感謝申し上げますと共に、皆様のご健康とより安全・安心な街づくりを祈念しております。

また、興味を持たれた方、参加体験してみたい方はぜひ一度参加す



パトロール出発前のさくら婦人チームの皆さん

「風」を一緒に作りませんか
この男女共同参画情報誌「風」は、市民編集員の方と取手市が協力して企画・取材・原稿作成・編集など協力をいたします。「風」の発行にだけける編集員の方を募集します。詳細や応募方法については、市民協働課までお問い合わせください。(問い合わせ先は左参照) ご応募お待ちしております!

編集後記
初めて、編集員として参加させていただきまして。職場や家庭はもちろんです。社会的な「男女平等」の意識共有は、どこまで浸透しているのでしょうか。昨今の世相を見ると、複雑な問題が横たわっているようです。核心を手繰り寄せる努力を続けたいですね。(荒井)

防犯活動はより多くの人でやる方が効果は大きくなります。防犯に対する一人ひとりの意識を高め、地域につながるをより強くしていきますよ。(土屋)

発行日 平成27年11月1日
編集発行 取手市 市民協働課
土屋雅則/下園淳子
河戸優子/荒井俊夫
〒302-8585 取手市寺田5139
TEL 0297-7412141
FAX 0297-7315995
H・P http://www.city.toridebaraki.jp
Eメール s-shiku@city.toridebaraki.jp
表紙絵 有本 唯